【開催報告】http://www.mizu.gr.jp/bunkajuku/houkoku/

第 25 回里川文化塾

Webで公開中！

忍城（おしじょう）の水利用

ミツカン水の文化センターでは、2011 年度から「使いながら守る水循環」を学ぶため、「里川文化塾」を年に数回開いております。

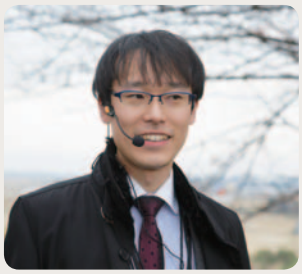
第 25 回目は、小説および映画『のぼうの城』で一躍有名になった「忍城」を舞台に開催しました。

忍城は、沼地のなかの地形を巧みに活かして建設され、室町時代から明治初年にかけて存在した城。北武蔵の成田氏が築城したとされ、水郷のなかに点在するその様はまさに要害だったそうです。

行田市郷土博物館の学芸員・澤村怜薫（さわむられいか）さんを講師に迎え、豊臣秀吉の命を受けた石田三成による「水攻め」にも屈しなかった「難攻不落の城」を舞台に、井戸や水場など「城にかかわる水利用の知恵」について学びました。

また、忍城のように平地にある「平城（ひらじろ）」と、戦国時代に一般的だった「山城（やまじろ）」では、それぞれどのように水を利用・管理していたのでしょうか。城郭における井戸の場所や数といったことにも触れておりますので、ぜひご覧ください。

忍城の本丸跡に建てられた三階櫓（模擬）と堀



講師　**澤村怜薫さん**
行田市郷土博物館 学芸員

日時：2016 年 11 月 27 日（日）
9:30 ～ 17:00 ごろ
フィールド：埼玉県行田市
講義会場：行田市郷土博物館
（埼玉県行田市本丸 17-23）
参加者数：32 名
主催：ミツカン水の文化センター
協力：行田市郷土博物館

丸墓山古墳を上る参加者

古墳の頂上から忍城方面を眺める

埼玉県指定史跡の石田堤の遺構

【水の風土記 最新インタビュー】http://www.mizu.gr.jp/fudoki/

Webで公開中！

生きものの進化から考える「ヒトと水」の関係

遠藤秀紀さん
東京大学総合研究博物館 教授

魅力あふれる独自の「水の文化」を培っている「人」や「事･場」を訪ね、研究や活動をホームページで発信する「水の風土記」。機関誌の特集テーマではなかなかお会いできない「人」や「事･場」を定期的にご紹介しています。

人にフォーカスする〈水の文化 人ネットワーク〉では、「遺体科学」を提唱する東京大学総合研究博物館 教授の遠藤秀紀（えんどうひでき）さんにお話を聞きました。

世界で初めてパンダが「7 本指」であることを発見した遠藤さんの目から見た「ヒトと水」の関係とはどのようなものなのでしょうか。どうぞご一読ください。

機関誌『水の文化』54 号に関する訂正とお詫び

『水の文化』54 号の記事について誤記がありましたので、お知らせいたします。

p12「薩摩藩」本文 2 段目 1 行目

誤）曽木川治水工事
正）木曽川治水工事

訂正してお詫びいたします。

水の文化 Information

■『水の文化』に関する情報をお寄せください
本誌『水の文化』では、今後も引き続き「人と水のかかわり」に焦点をあてた活動や調査・研究などを紹介していきます。
ユニークな水の文化楽習活動や、「水の文化」にかかわる地域に根ざした調査や研究がありましたら、自薦・他薦を問いませんので、事務局まで情報をお寄せください。

■ホームページのお問い合わせ欄をご利用ください。
http://www.mizu.gr.jp/

■水の文化 バックナンバーをホームページで
本誌はホームページからPDFファイルとしてダウンロードできるほか、冊子をご希望の方はホームページの「最新号のお申し込みボタン」からお申し込みいただけます。どうぞご利用ください。

■里川文化塾レポート詳細版は、ホームページで
里川文化塾のレポート詳細版は、参加できなかった方も楽しめる内容です。今後の企画についても、順次ホームページでご案内します。ご注目ください。

皆さまの感想をお待ちしています！

『水の文化』55号について、アンケートにご協力ください。
今後の機関誌をよりよくしていくための参考にさせていただきます。

◆アンケートへの回答はこちらから。
http://www.mizu.gr.jp/form55.html

※アンケート用紙をお持ちの方は、FAXまたはメールにて下記へご返信いただく形でも結構です。
FAX：03-6685-7596
メールアドレス：tokyo-office@mizu.gr.jp

編集後記

SPQR、桃太郎ジーンズ、BUAISOU、今回訪ねた現場にはストーリーがあった。藍色の魅力にも惹かれたが、それに関わる人と物語を知るとよりその価値がわかった。商品としては高めだが、そこに秘められた想いと技を知ると納得できる。さて、今号はそこまで伝えられただろうか。（後）

色をテーマにした初企画。色と文化の密接な関わりに驚き、浮世絵が海外に与えた真の影響に驚き、藍という先人達の知恵と工夫に驚いた。色は深くて面白い！日本でしか出せない「藍染め」の色にもっと関心を寄せたいなと思いました。（松）

私にとって、一番身近な藍は食器だ。昔も今も、愛用している食器には白地に藍のものが多かった。藍はいつでも、さり気なく日常を彩ってくれる、とても身近な色だと思う。この藍への親近感がこの国独自の感覚だと知り、日本人で良かったと改めて感じた。（原）

「これ貸して」と言って娘が手に取った洋服は〝藍色のGジャン〟だった。15年前に私が着ていた〝藍色のGジャン〟は、「この色いいよね！」と言って持っていった娘が、今着ている。藍色は月日が流れても、色褪せることがない色なのかもしれないと思った瞬間であった。（吉）

伝統的なものづくりはどれも手間と時間がかかる。手業が最大の魅力なのだから、仕方のないことだ。しかし、先人たちの知恵と手業を踏襲しつつも、現代の技術をうまく取り入れ、工夫を重ねながら挑戦している若者たちに出会えた。「藍」の未来を感じるとても有意義な取材だった。（力）

今いちばんのお気に入りは、徳島の天然藍で淡く染めたタオルマフラー。首元に巻いて出かけて「これ、自分で染めたんですよ」と言うと、「ウソでしょ!?」と驚かれるのが結構楽しい。でも服装には無頓着なので、藍色を活かすコーディネートがわからないのが悩み。この春、藍染めのおかげでオシャレに目覚める、かも？（前）

ミツカン水の文化センター機関誌
水の文化 第55号
ホームページアドレス
http://www.mizu.gr.jp/

発行
ミツカン水の文化センター
〒104-0033 東京都中央区新川 1-22-15 茅場町中埜ビル4F
株式会社 Mizkan Partners
Tel. 03（3555）2607　Fax. 03（3297）8578

お問い合わせ
ミツカン水の文化センター 事務局
〒103-0014 東京都中央区日本橋蛎殻町 1-11-3 中銀NM・5F
Tel. 03（6264）9471　Fax. 03（6685）7596

発行日
2017年（平成29）2月

企画協力　（氏名50音順）
沖　大幹　東京大学生産技術研究所教授
古賀邦雄　水・河川・湖沼関係文献研究会
陣内秀信　法政大学教授
鳥越皓之　大手前大学学長
中庭光彦　多摩大学教授

制作
後藤喜晃
松本裕佳
小林夕夏
原田朱野
吉田奈保子

編集製作
前川太一郎　編集
中野公力　デザイン・撮影

執筆
佐々木　聖（pp.20-23、pp.32-34）
手塚ひとみ（pp.12-14）
開　洋美（pp.24-31、pp.38-39）
前川太一郎（pp.6-11、pp.15-19、pp.45-49）

撮影
大平正美（pp.20-23）
川本聖哉（pp.4-5、p.8、p.11、pp.28-29、p.31）
鈴木拓也（p.11、p.13、pp.15-19）
中野公力（p.33、pp.45-49）
藤牧徹也（pp.6-7、p.11、pp.24-27、p.30、pp.38-44、p.50）

印刷
中埜総合印刷株式会社

※禁無断転載複写